第五十五回中部日本高等学校演劇大会参加作品

滝高等学校

ガキンチョ帝国

作　瀧　源作

連絡先
滝高等学校
〒四八三―八二六一
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二一二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五ノ二十五
電話（〇五六八）六一―七九九九

キャスト（男１０人・女６人）

幼稚園の先生
早川　皓一郎

幼稚園児達
黒川　優
林　紘太郎
山本　佑樹
中島　悟
浅野　麻美
大野　愛
國島　由季
梶田　裕香
今泉　尚子
大橋　美奈
渡部　亮
木村　雄貴
千田　敬大
宮川　剛

バスの運転手
小崎　章大

オープニング～第一場

・ダークオープン。曲が入ると、舞台はシルエット。
舞台上は、中を風船が風で舞う仕掛けや照明を仕込んだ四角柱状の大きな装置がある。幼稚園の風景。
・鮮やかな照明の中、曲に合わせて幼稚園児達がダンスを踊る。

先生　（笛を吹いて）もう朝の会が始まってますよ。時間になったら、お部屋に入って座ってなさいって言ったでしょ。
優　亀先生、その笛うるさい。
先生　（前に出ながら）亀岡です。昨日、みんながうるさかったから、この笛があったら静かになると思って、今日から持ってきたんです。
佑樹　（立って）でも音が大きすぎて耳が痛い。
愛　（立って耳をおさえ）あっ、何も聞こえない。
裕香　大丈夫？
愛　大丈夫じゃない。
麻美　病院行く？
愛　病院は嫌だ。
先生　聞こえてるじゃないか。
愛　うん。
先生　わかりました。明日からこれにします。（楽器を二回鳴らす。）
愛　ありがとう、亀先生。
先生　昨日も言ったでしょ。僕の名前は、亀岡です。
愛　亀先生。
先生　亀岡です。
愛　亀先生。
先生　僕の名前は亀岡です。それでは、今日もみんなが元気か、大きな声で返事をしてください。麻美ちゃん。
麻美　みんないる。
先生　みんなー。
園児全員　はーい。
先生　みんないるみたいだね。
裕香　（立って）先生、今年男の先生だって言ったら、お母さんびっくりしてたよ。（座る）
優　（立って）うちのお父さんも、男の先生に子供の相手ができるかって言ってたよ。（座る）
先生　あっそう。確かに、ここの幼稚園で男の先生は、僕だけだからね。
愛　やっぱり、前の美保子先生の方がよかった。
先生　でもね、美保子先生は赤ちゃんを産まなきゃいけないからね。だから僕が一年間、みんなの先生になったんだ。
愛　何で？
先生　赤ちゃんができると、先生はお休みしなきゃならないんだよ。
佑樹　赤ちゃんって、コウノトリが運んでくるんじゃないの？
優　えっ、キャベツ畑で生まれるんじゃないの？
愛　でも私は橋の下で生まれたんだって。
全員　え？
麻美　それ本当？
優　愛ちゃん、捨て子なの？
麻美　捨て子って何？
愛　捨て子のお母さんは、偽者なんだよ。
麻美　えっ、じゃあ本当のお母さんは？
愛　きっと、どこか遠くで暮らしているんだよ。
紘太郎　私、本当のお母さんがいい。
愛　じゃあ、本当のお母さんが見つかるように、みんなでお祈りしようよ。
佑樹　うん。
園児全員　・みんな集まる。
愛　本当のお母さんが、早く見つかりますように。
園児全員　見つかりますように。
愛　みんなの気持ちが届くといいね。
園児全員　そんな事あるわけないでしょ。

先生　どうして？
麻美　愛ちゃんはね、紘太郎君のお父さんの病院で生まれたんだよ。
紘太郎　僕のお父さんが、コウノトリさんから受け取ったんだ。
愛　三千三百グラムの元気な赤ちゃんでした。
先生　そっか。あはは、先生からかわれちゃったなぁ。
裕香　先生、子供心がわかってないなー。
由季　あと乙女心もね。
優　彼女いないんでしょ。
先生　その通りです。
悟　歳はいくつ？
先生　二十五。
愛　先生は、何で先生になったの？
先生　子供が好きだからだよ。
女子全員　イヤン！
裕香　先生、それってロリコンって言うんだよ。
先生　違うよ、先生はみんなが好きなんだよ。
男子全員　イヤン！
麻美　好きって、軽々しく言われても困るよねー。
紘太郎　先生軽薄。
佑樹　だから結婚できないんだよ。
麻美　どうして昨日会ったばかりなのに、好きになれるの？
先生　それは、僕が先生だからだよ。
優　先生だと、すぐ人を好きになれるの？
先生　そうだよ。
愛　誰でも？
先生　そうだよ。
悟　どこでも？
先生　そうだよ。
由季　いつでも？
先生　そうだよ。
愛　今も？
先生　食べちゃいたい。

由季　先生、私を食べる人は決まってるの。バラ組の純一君。
紘太郎　何で？
由季　実は、昨日純一君と結婚したの。
先生　結婚？
由季　プロポーズの言葉はね、お前を食べちゃいたい。うふっ。
裕香　何で結婚式に呼んでくれなかったの？
由季　二人きりでやったの。
麻美　何で？
由季　純一君が、私の花嫁姿を誰にも見せたくないって。
愛　じゃ、ブーケはどうしたの？
由季　落ちてたのをちぎった。
悟　どこで？
由季　交差点の角。
・しばしの間。
麻美　いいなぁー。
由季　今持ってるよ、ほら。
悟　取った人が、次に結婚できるんだよね。
裕香　私にちょうだい。
麻美　私も欲しい。
愛　早く投げて。
由季　それじゃあいくよ。ほら！
先生　うおりゃあ！（ブーケをつかむ。）
麻美　何で先生が取ってんの！
先生　うるさい！僕にはもう未来がないんだ。お前ら座れっ。
由季　じゃあ、私が先生のお嫁さんになってあげる。
先生　えっ。
裕香　でも、由季ちゃんには純一君がいるでしょう。
由季　あっ、そうだった。先生もいいけど、純一君も好きだからなー。どうしよう？
愛　そういうの、不倫て言うんだよ。
優　不倫って悪いことなんだよ。
由季　じゃあ、離婚しかないかなぁ。

紘太郎　でも離婚するには、慰謝料とか面倒くさいのがいっぱいあるんだよ。
由季　じゃあ、離婚しないで不倫を続ける。
麻美　そういうの、昨日テレビでやってた。
裕香　あっ、見た見た。
紘太郎　でも最後には、男の人が死んじゃうんだよね。
愛　えっ、純一君死んじゃうの、かわいそう。
由季　えっ、私が純一君を殺すの？
悟　それしかないよ。
由季　でも、私に殺せるかなぁ。
優　大丈夫、できるよ。
愛　じゃ、練習してみよう。
佑樹　先生、純一君役ね。
先生　何で僕が純一君なの。ねえ、ちょっと待ってよ、みんな。僕、何にもしてないよ。
由季　（先生の首に手を回して）手が届かない。
先生　先生、首太いからね。
麻美　よし、みんなでやろう。
園児全員　うん。
先生　何でみんなでやるの。みんなでやったら死んじゃうよ。僕、不倫なんてしてないよ。彼女もいないのに……。
園児全員　死ねー、死ねー、死ねー！（などと悪口を言う）
先生　死ぬー、死ぬー！（苦しむ）

・軽快な曲が流れる中、明転。

第二場

裕香　・幼稚園で、ママゴトをしている。
先生　お父さん、仕事は見つかった？
紘太郎　まだ。
佑樹　お腹減ったよう。
裕香　ワン。
悟　ごめんね紘太郎、ポチ。お父さんがパソコンも英会話も出来ないばっかりに・・・。
先生　父さん、もうつまらない意地張るのやめてくれよ。うるさい。俺には三十年間築きあげてきた実績があるんだ。それを今更、若い奴らにあごで使われてたまるかよ。
悟　これ以上、みんなを悲しませないでくれよ。
先生　黙れ！昔は体力と笑顔で乗り切れたんだ！
悟・紘太郎・裕香　時代は変わったんだよ。
佑樹　ワン。
先生　口答えするんじゃなーい！（殴る、蹴る）……借金取りだあ。
裕香　どうするのよ。
悟　もう売るものは無いよ。
先生　こうなったら……みんな……楽になろう。
四人　うん。
先生　こんなはずじゃなかった。
悟　もっと幸せな家庭に生まれたかった。
裕香　こんな人についてこなければ。
紘太郎　お腹減ったよう。
佑樹　ワオーン。
先生　天国で会おうぜ。
五人　ガクッ。
愛　・愛・麻美・由季が一斉に登場。
麻美　死んじゃってどうすんのよ。
由季　ママゴト終わっちゃうでしょ。
紘太郎　私、出番ない。
先生　だって、先生が楽になろうって言うんだもん。
佑樹　先生は、儚い家族愛を作ろうとしたんだよ。
先生　ママゴトに儚さっているの？
裕香　人生いろいろ。
悟　暗い人生。
愛　それが先生の末路だよ。
麻美　せっかくのお遊戯の時間、こんなんじゃ嫌だ。想像力がないのよね。

由季　私、出番ない。
優　俺の出番まだ？
優以外全員　まだ。
裕香　ウルトラマンなんか、出番あるわけないじゃない。
優　困った人生には、ウルトラマンが必要なんだよ。
麻美　あんたはいらない。
優　俺三分間しかないんだよ。助けを呼べば、すぐ出てくるから。
愛　じゃあ、交代してやろ。
麻美　先生、暗い人生なんか嫌だからね。
先生　わかりました。
由季　私、お母さん。
愛　最後は絶対ハッピーエンドね。
麻美　いくわよっ。
全員　はいっ。
優　俺三分間だからな、三分間。あと二分しかないから。
・優・悟・紘太郎・裕香は去る。
由季　お父さん、仕事は見つかった？
先生　まだ。
麻美　お腹すいたよ。
佑樹　ワン。
愛　父さん、もうつまんない意地張るのやめてよ。
先生　うるさい。俺には三十年間築きあげてきた実績があるんだ。それを、今更若い奴らに、あごで使われてたまるかよ。
愛　もうこれ以上、みんなを苦しませるのはやめてよ。
先生　黙れ！昔は体力と笑顔で乗り切れたんだ！
愛・麻美・由季　肥満がたたったんだよ。
佑樹　ワン。
先生　気にしてるのに！（三人に叩かれ、犬にかまれる）
由季　お父さん、本当に仕事見つからないの？
先生　実は仕事見つかったんだ。
愛　本当なの、お父さん。
麻美　何になったの？もうご飯食べられるの？

先生　ああ、もちろんだよ。お金がいっぱいもらえるから、この仕事を選んだんだ。
愛　もしかしてお医者さんとか。
先生　違うよ。お父さんは、明日からホストだ。
愛・麻美・由季　ホスト？
先生　たくさん指名もらって、同伴もして、楽な生活するぞ。
麻美　指名や同伴って、女の人とするんだよね？
先生　もちろん。
愛　夜遅くなったりするんだよね？
先生　そうだよ。
由季　お父さん、何でそんな仕事に？
先生　お母さん以外の女性と、公然と付き合えるから。
麻美　浮気するの？
先生　恋に落ちるかもしれない。
愛　キスなんかもしちゃうの？
先生　求められればね。
由季　二人でお風呂に入ったりもするの？
先生　いやあ、照れるなあ。
佑樹　ワンワン。
先生　ワンワン。
麻美　それってただの不倫じゃない。
愛　お母さん、こんなお父さんそれでも応援するの？
由季　いいのよ二人とも。私、お父さんに一生ついていくって心に決めたの。
愛・麻美　お母さん……。
由季　うっ。（倒れる）
愛・麻美　お母さん？
由季　実は私、今赤ちゃんがいるの。
愛・麻美　えっ？
愛　いつから？
由季　昨日コウノトリが運んできたの。私一人じゃ、三人も育てられないわ。
麻美　でも……。
由季　お父さんを頼っていくしかないの。

愛　お母さん、不倫されてもいいの？
由季　耐える女って、耐える女って、なぜか綺麗。ううう……。
愛　だけど……うっ。（倒れる）
由季　愛ちゃん？
麻美　どうしたの？
愛　実は、私も昨日赤ちゃんができたの。
由季　えっ？
愛　昨日キャベツを食べてたら、中にいた。
由季　でも、そんな事何も言ってくれなかったじゃない。
愛　ごめんねお母さん。私、お母さんの思ってるような良い子じゃないよ。
由季　いいのよ、愛ちゃん。一緒に育てていきましょう。
愛　ありがとう。
麻美　二人とも赤ちゃんだなんて……うっ。（倒れる）
由季　麻美ちゃん？
麻美　私も桃を食べたら赤ちゃんができたの。
由季　えっ？
麻美　二つ食べたから、きっと双子よ。
先生　麻美、お前はなんてことを……うっ。（倒れる）
愛・麻美・由季　お父さん。
由季　お父さんも赤ちゃん？
先生　実は、昨日白い象がお腹に入る夢を見たら、朝にはできてた。
佑樹　ワンッ、ワンワンワンワン……うっ。（倒れる）
先生　お前は黙ってなさい。
由季　わーい、みんな赤ちゃんができてお母さんとっても嬉しい。
愛　あっ、動いた！
麻美　起きた！
先生　けった！
佑樹　ワン！
・四人とも、セリフを言いながら起きる。
由季　みんな幸せ。
五人　バンザーイ、バンザーイ！

・裕香、紘太郎、悟が出てくる。
裕香　そんなのあるわけないよ。
紘太郎　何でみんなに赤ちゃんができるんだよ。
悟　こんなの絶対変だよ。
・三人は、口々に文句を言う。
愛　人が増えるって、おめでたいことじゃない。
紘太郎　犬まで赤ちゃんができるって、やりすぎだよ。
佑樹　犬だって赤ちゃん産むよ。
裕香　あんたオスでしょ。
佑樹　先生だってオスだよ。
先生　先生は独身貴族だよ。
由季　そんな言い方をして、私達の家族を不幸にしないでよ。
悟　そんなもの最初から不幸だよ。
由季　赤ちゃんがいっぱいできるっていいことよ。
紘太郎　そういうの、フシダラな女って言うんだよ。
由季　私フシダラじゃないもん。
紘太郎・悟　このフシダラ女！
由季　私フシダラじゃないもん、フシダラじゃないもん、フシダラじゃないってばー！
・由季は、去る。残る全員が、あれこれ言い合っていると鐘が鳴る。
先生　みんな、お昼の時間だよ。さっ、食堂に行こう！
全員　はーい。
・優が遅れて出てくる。
優　（舞台中央で）とおっ！（箱馬を飛び越える）シュワッチ！（飛ぶ）
・ウルトラマンの曲が流れる中、明転。

第三場

由季　・ピンスポットライトの中、由季と敬大が滑車の付いた台に座って、台ごと動きながら、下手から登場。
敬大君、急に呼び出したりして、ごめんね。

敬大　うん。（うなずく）
由季　言いたい事があるの。
敬大　（うなずく）
由季　私、敬大君の事が好きなの。
敬大　（うなずこうとして由季をじっと見て、驚く）え？
由季　昨日、敬大君と肩がぶつかった時、私は恋に落ちたの。
敬大　うん。（うなずく）
由季　敬大君は私の事、どう思ってるの？
敬大　（由季を見て、嬉しそうに笑い）好き。
由季　本当に？
敬大　本当。
由季　じゃ、結婚して。
敬大　はい。
由季　嬉しい。
敬大　嬉しい。
由季　結婚式はいつにしようか？
敬大　今日。
由季　今日？もう、敬大君ってば積極的なんだから。でも、今日はだめよ。
敬大　だめ？
由季　だって、敬大君の事、私のパパやママに紹介しなくちゃ。パパが反対したら、敬大君土下座してね。
敬大　うん。（うなずく）
由季　それに、みんなを結婚式に呼ばなきゃいけないし・・・。だから、明日にしようね。
敬大　明日ね。
由季　私、いいお嫁さんになるね。
敬大　なってね。
由季　浮気なんてしないから。
敬大　僕も。
由季　ありがとう。
敬大　どういたしまして。
由季　……でもね、結婚する前に言っておかなきゃいけない事があるの。

敬大　え？
由季　実は、私、バツがついてるの。
敬大　バツ？
由季　そう。私、もう三回も離婚してるの。最後に離婚したのは、茂君。敬大君と結婚したかったら。こんな私の事、嫌いになった？
敬大　（首を振る）
由季　（敬大を見ずに）いいのよ、無理しなくても。どうせ私は汚れた女なの。でも・・、でも・・、私、敬大君無しじゃ生きていけない！（泣く）
敬大　（オロオロしながら肩に手を置き、ハンカチを差し出す。）
由季　こんな私を許してくれるの？
敬大　（にっこり笑ってうなずく）
由季　このハンカチが、結納ね。
敬大　心ばかりです。
由季　敬大君……私って幸せ者。
敬大　僕も幸せ者。
由季　（二人、じっと見つめあい、正座する）
敬大　由季って呼んで。
由季　敬大って呼んで。
敬大　由季。
由季　ふつつか者ですが、よろしくお願いします。
敬大　二日目ですが、よろしくお願いします。
由季　・二人見つめあい、ゆっくりとおでこをくっつける。
敬大　・二人の乗った台が、上手へ去ると暗転。

第四場

先生　・みんな騒いでいる。
（笛を吹いて）みんな落ち着いて。一人ずつしゃべりましょう。

愛　落ち着いてなんかいられないよ。
麻美　発表会、二週間後なんでしょ？
紘太郎　時間ないし。
佑樹　やりたい事いっぱいあるし。
愛・麻美　うん。
先生　じゃあみんな、何がやりたい？
園児全員　（手をあげて）はーい！
先生　じゃあ、麻美ちゃん。
麻美　私、ファッションショーやりたい。
愛　いいねー、ドレスとか着てさ。
裕香　ちょっとモデル気分、なーんて。
先生　みんなドレス持ってるの？
由季　お母さんのがある。
先生　えっ、すごいね。
由季　私がお腹の中にいるとき、着てたんだって。
先生　それ、マタニティードレスでしょ。
紘太郎　お母ちゃんのドレスなんか着たって、みんなブカブカでしょ。
佑樹　男もドレス着るの？
愛　男のタクシーないの？
佑樹　は？
先生　タキシードだね。
愛　そう。
悟　そんなの、うちにもないよ。
麻美　かっこいい服であればいいよ。
優　このスモックじゃ駄目か？
麻美　みんな着てるでしょ。
裕香　パジャマのファッションショーなんか、どうかな？
麻美　それいいね。
愛　じゃあ私、ピンクのネグリジェにしようかな。
紘太郎　え、愛ちゃんそんなの着てるの？
愛　水玉もあるし、ぞうさんのネグリジェもあるのよ。
男子園児全員　見たい！
先生　ファッションショーやろう。
佑樹　じゃあ僕出られない。
先生　何で？
佑樹　僕、いつも寝るときは裸だから。
先生　大丈夫？
佑樹　つけてるのはベビーパウダーだけ。うふっ。
先生　ファッションショーやめよう。
由季　はーい、私お芝居やりたい。
佑樹　何の劇やるの？
愛　シンデレラやろうよ。
悟　誰がシンデレラ？
女子全員・紘太郎　はいっ！（立ち上がって挙手する。）
麻美　何あんた手あげてるのよ。
裕香　お姫様っていったら私でしょ。
愛　意地悪な継母の間違いでしょ。
裕香　なんですって！
麻美　あんた何！男でしょ？
紘太郎　素敵な王子様に迎えにきて欲しいから。うふっ。
悟　じゃあ誰が王子様やるんだ？……はいっ！
紘太郎　僕やっぱり降ります。
先生　じゃあ僕がやろうかな。
由季　先生はカボチャね。
先生　はい。　一応、園長先生からこういうのやってくれっていうのは、あるんだけどね。
優　えっ、早く言ってよ。
先生　みんなきっと反対するよ。
悟　そんな事ないってば。で、何？
先生　歌。
園児全員　歌？
先生　しかも「大きな栗の木の下で」。
園児全員　「大きな栗の木の下で」？
先生　何かみんな嬉しそうだね。練習してみよっか。集合！
園児全員　（楽器を鳴らして）……さんはい！
・先生も含めた全員が歌う。歌は音程がはずれ、聞くに堪えられない。歌が終わったところで先生だけ拍手する・
下手！

裕香　こんな下手な歌、聞いた事ない。
先生　そりゃそうだ、僕はダンス専門だからね。
園児全員　ダンス？
先生　（「青いイナズマ」を歌って踊る）ジャニーズにあこがれていたんだけどね、ちょっと体重がオーバーしちゃってね。
愛　でも、歌の見本がこれじゃあね。
先生　でも、園長先生が、是非子供らしい元気なものをって言ったんだ。
佑樹　子供らしいって、下手に歌うこと？
先生　そりゃもちろん、うまい方がいいに決まってるよ。
悟　でも、先生がこれじゃあ、歌の見本にならないね。
先生　大丈夫、勉強するから。
麻美　勉強するったって、あと二週間しかないのよ。
先生　頑張る。
優　そして俺達に教えなきゃいけないんだよ。
先生　努力する。
愛　じゃあ、先生に上手くなってもらおうよ。
先生　よろしくお願いします。
麻美　はい先生、ここに座って。
（紘太郎・悟・愛・麻美・裕香、ハモリも素晴らしく歌う。）
愛　先生固まっちゃってるよ。
紘太郎　動かないよ。
麻美　ショックだったのかなぁ。
悟　子供らしさを勘違いしていたみたい。
裕香　刺激が強すぎたみたい。
由季　どうする？
佑樹　じゃあ、僕達だけで練習しよう。
優　歌の練習？
愛　そんなの何だっていいじゃん。
麻美　歌でも踊りでも、みんなで決めよう。
由季　先生抜きでね。
愛　先生の夢は、綺麗にしておこう。
園児全員　うん。

・園児たちは去る。
・舞台上には、一人先生が残されるが、やがて静かに歌い始める。
・暗転

第五場

由季　・由季と雄貴、台に乗って下手から登場。
雄貴　ねえ、雄貴君。私達、そろそろ結婚してもいい頃じゃない？
由季　でも僕達、まだ付き合い始めて三日だし。
雄貴　もう三日も経ったのよ？
由季　でも、ママに聞いてみないと。
雄貴　いい加減にして！あなたは、いつもそうやって逃げてばっかり。あなたと結婚するために、あなたのために、私は敬大と離婚したのよ！
由季　わかった。結婚しよう。
雄貴　嬉しい。
由季　由季ちゃんが嬉しいなら、僕も嬉しいよ。
雄貴　名前も由季と雄貴で似た者同士だし。
由季　そうだね。
雄貴　雄貴君、知ってる？
由季　え？
雄貴　赤い糸で結ばれた男と女は、ずっとずっと幸せでいられるのよ。
由季　そうなんだ。
雄貴　だから私、結ぼうと思って今日赤い糸持ってきたの。
由季　ほら。
雄貴　これが赤い糸か……。あっ、切れちゃった。どうしよう。
由季　えっ。
雄貴　不吉だね。
由季　大丈夫よ、もっと太いのを用意したの。
雄貴　（結ぼうとしながら）ちょっと結びにくいね。

由季　えっ、それじゃあ私達一緒にいられないよ。
雄貴　うん、がんばる。……あっ、また切れちゃった。
由季　え？
雄貴　不幸のどん底だね。
由季　こんな事もあろうかと、最強の物（赤い鎖）を用意したの。
雄貴　でも、これじゃあ指には結べないよ。
由季　首にかければいいのよ。（雄貴にかける）
雄貴　これ、犬みたい。
由季　気にしないで。
雄貴　何かこうすると、僕奴隷みたい。
由季　そうよ、あなたは愛の奴隷。
雄貴　じゃあ由季ちゃんは？
由季　愛のご主人様。奴隷。
雄貴　ご主人様。
由季　奴隷。
雄貴　ご主人様。

・二人の乗った台が上手から去る。

第六場

・美奈・尚子・雄貴・敬大が「どんぐりころころ」を振り付きで歌い、去る。

第七場

・優・紘太郎・悟・佑樹・麻美・愛・由季・裕香のダンス。

第八場

・舞台中央で、亮と剛が出会う。

剛　亮君。
亮　あ、おはよう。
剛　そんなにいっぱいの荷物、どうしたの？
亮　だって、今日お泊まり会でしょ。
剛　うん。
亮　何があるかわからないから、いろんな用意だけはしておいたんだ。
剛　一体何を持ってきたの？
亮　乾パン、非常用飲料水、懐中電灯、ラジオ、ガスコンロ、防災頭巾。
剛　そんなにたくさん？
亮　それに、ゴムボートも持ってきたんだ。
剛　何で？
亮　洪水になったら大変でしょ。
剛　今日行くのは山の上でしょ。
亮　備えあれば準備万端。
剛　そうだね。
亮　君は何も持ってきてないの？
剛　包丁六本。
亮　何のために？
剛　ちょっと仕事を頼まれたんで。
亮　何の？
剛　お金がたくさんもらえる仕事さ。
亮　どんな仕事？
剛　そんなに僕の仕事に興味があるのかい？
亮　興味ある。
剛　きっとその荷物、無駄になると思うんだけどな……ふっ。

・剛は去る。

亮　ねぇ、それどういう意味？一体何のことだよ、教えてくれよー！

・亮も、剛を追って去る。次に、尚子と美奈が登場。

尚子　やだやだやだやだ！
美奈　今日はお泊まり会でしょ！駄々こねないの。
尚子　行きたくない！

美奈　何で？
尚子　枕がかわると眠れない。
美奈　あんた、枕した事ないじゃない。
尚子　ふとんが替わると眠れない。
美奈　ふとんは持ってきてるでしょ。
尚子　みんながいると眠れない。
美奈　だったら一人で寝る事ね。
尚子　一人じゃもっと眠れない。
美奈　朝までずっと起きてなさい。
尚子　やだやだやだやだ……。

・二人は去る。
・敬大が雄貴のかばんを持って走っていき、それを雄貴が追いかけていく。

・暗転

第九場

先生　・舞台上は、バスに乗っているような椅子の配置。
園児全員　いってきまーす！
先生　いってきまーす！（騒ぐ）
園児全員　（笛を吹いて）さて、今日はみんなが待ちに待ったお泊まり会です。
先生　イエーイ！（騒いで拍手をする）
愛　みんな、忘れ物はありませんか？
運転手　わかってたら忘れないよ。
先生　そりゃそうだ。
愛　ああ、そうですね。今日はどこに行くか知ってますか？
麻美　韓国。
悟・優　ハワイ。
先生　宇宙。
由季　おしい！
先生　で、どこなの？
園児全員　今日は亀山の亀の家に行きます。
麻美　えー。
先生　何でそんなダサいとこなの？
裕香　予算の都合でね。それでは皆さん、バスガイドさんの言うことを聞いて静かにしていましょうね。
先生　バスガイドさんどこにいるの？
優　バスガイドさーん。　はーい！
先生　先生がバスガイドさん？
予算の都合でね。それでは皆さん、右手をご覧ください。
佑樹　あっ、線がいっぱいある。
先生　それは生命線でございます。それでは左の方をご覧ください。
悟　あっ、あの三角の何？
先生　ピラミッドだよ。
優　じゃあ、あっちのは？
先生　エッフェル塔。
園児全員　あれは？
麻美　通天閣って言うんだよ。
先生　先生もの知りー。
愛　あっ、綺麗な女の人。
先生　えっ、どこどこ？
裕香　先生セクハラー！
先生　ごめんごめん。
優　先生、触んないでよ。
先生　またセクハラしてるー！
悟　違う違う、誤解だって。
由季　静かにしろよ。じゃないと……。（吐く）
運転手　悟君きたなーい。
先生　・全員騒ぎ、由季は運転手にもたれる。
麻美　危ない危ない。先生、何とかしてください。
先生　すみません。はい、みんな座って座って。悟君大丈夫？
私、ビニール袋持ってるよ。
さすが麻美ちゃん、気が利くね。

麻美　ジャーン！
愛　わあ、おっきいね。
麻美　うん、生ゴミ用。はい。
先生　悟君これかぶってなさい。
運転手　右に曲がります。左に曲がります。上へ上がります。
　　あっ穴ボコ！
佑樹　・運転手の台詞に合わせて、全員体が右往左往。
先生　先生おしっこ。
佑樹　出発前にしておきなさいって言ったでしょ。
先生　行ったけど、またしたくなったの。
　　もう。運転手さん、トイレのあるところまでどのくらいかかりますか？
運転手　あと五分くらいですね。
先生　我慢しなさい。
佑樹　できない。
先生　そこら辺でするわけにはいかないでしょう。
佑樹　ちびるー！
他の園児　ちびれ、ちびれ、ちびれ！
佑樹　もういい、こっからする。
愛　やだー、こんなとこでするのー？
麻美　私たち女の子なのに。
由季　こんなの初めてー。
裕香　お嫁にいけなーい。
女子全員　はずかしー。どれどれ。（見る）
先生　女の子は見ちゃだめ、目をつぶってなさい。
女子全員　はーい。
先生　ああ、だめ、だめだってもう！（手にかかる）ああ、ベチョベチョや。まったく、しちゃだめだって言ったでしょう。（言いながら女の子の服で拭く）
佑樹　すっきりした。
愛・麻美　先生、何か冷たーい。
先生　気のせいです。
愛　それに、何かちょっと臭い。
先生　我慢しなさい。はい、目を開けていいよ。みんなは窓からおしっこなんてしちゃだめだよ。

園児全員　はーい。
由季　運転手さん、ポッキー食べる？
運転手　あっ、ありがとう。
優　あっ、お菓子もってきちゃいけないんだぞ。（取りあげる）
　　あー！
由季　これは罰としてもらっておきます。
優　そんな事言って、優君自分が食べたいだけじゃないか。
紘太郎　先生に渡しなさい。
先生　（愛に）グミ食べる？
麻美　（麻美に）えびせんべい食べる？
愛　お菓子は持ってきちゃだめって言ったでしょ。
先生　（裕香に）チョコ食べる？
紘太郎　私食べるー！
由季　僕にもちょうだい！
佑樹　お菓子はだめだって言ってるでしょ！
先生　運転手さんどうぞ。
由季　食べちゃだめですよ。（取りあげる）
先生　それは私のですよ。
運転手　・運転手も交えた由季以外の全員、お菓子を取り合う。いつのまにか、運転席には由季が座ってバスを運転している。
先生　由季！
全員　えっ？
由季　どうやって運転していいかわからない。
全員　（前を指差して）あー！
　　・軽快な曲の流れる中、明転。

第十場

尚子　私、やっぱり帰る！
美奈　尚子ちゃん、帰っちゃ駄目！

尚子　やっぱりお母さんに会いたい。
美奈　我慢しなさい。
尚子　できない！
美奈　どうして？
尚子　ご飯がまずい。
美奈　カレー五皿も食べたじゃない。
尚子　お風呂でのぼせた。
美奈　湯船で五分ももぐるから。人間、時には我慢も大切だよ。
亮　そうそう。
尚子　でも、我慢のしすぎはよくないんだよ。
亮　そんな事もわからんのか！
美奈　お母さんだって、頑張ってって言ってたでしょ。
亮　この親不孝者！
尚子　お母さんだって、私がいなくて寂しいに決まってるよ。
亮　母を泣かせるな！
美奈　そんなの思い過ごしだって。
亮　自意識過剰なんだよ。
尚子　私も寂しくて死んじゃう！
亮　鬼！悪魔！
美奈　ちょっと亮！
亮　はい？
美奈　どうしてさっきから邪魔すんのよ？
亮　手伝ってるよ。
美奈　どこがよ！言ってる事コロコロ変わるし。それに何？
亮　鬼とか悪魔って！私にケンカ売ってんの？
尚子　いやぁ……そんなつもりは……。
亮　お母さーん！
美奈　・尚子は去る。
亮　あ！尚子ちゃーん！……行っちゃった。
美奈　全然駄目だったね。
亮　あんたのせいよ！
美奈　へっ？僕？
亮　あんたが無駄にしゃべるからよ。どうすんのよ？
美奈　終わった事を悩んでもしょうがないよ。
亮　追いかけるわよ！
美奈　行ってらっしゃい。
亮　あんたも来るのよ！バカ！
はーい！
・二人も去る。

第十一場

由季　・女児たちが登場。寝る場所を決め始める。
愛　愛ちゃんここ、裕香ちゃんそこ、由季ちゃんそっち。
由季　ほら、やっぱり私が一番綺麗。
裕香　でもね、一番外側はお化けが来るんだよ。
由季　えー！
麻美　おばけに連れ去られちゃうんだよ。
由季　えー！
愛　おばけに足引っ張られるんだよ。
由季　えー！
裕香　おばけに食べられちゃうんだよ。
愛　えー！（手で顔をはさんで）ねえ、何か今日私ブスじゃない？
麻美　うん、ブス。
由季　気持ち悪い。
裕香　見てらんない。
愛　由香ちゃん代わってあげる。
全員　ありがとう。私おばけなんて怖くないもん。
佑樹　魔よけにぴったりね。
愛　うん。
麻美　・男子三人上手から登場。
佑樹　あっ、もう決まっちゃったの？
由季　うん、決まった。
佑樹君、あんたパンツはいてんの？
うん。
寝るときはパンツも履かないんじゃなかったっけ？

佑樹　いつもはね。
優　先生がパンツだけは履いてなさいって。
女子全員　ちっ。
優　お前ら何考えてんだよ。
佑樹　やっぱりパンツだけじゃ危険かな。
紘太郎　じゃあ、これ着たら。（パジャマを手渡す）
佑樹　どうしたの、これ。
紘太郎　俺、汗っかきだから二枚持ってきたんだ。
佑樹　ふーん。ありがとう。
紘太郎　あ、ねぇねぇ、寝る場所はどうやって決めたの？
麻美　美人の順番。
優　どうする？
佑樹　美人の順番じゃあ決められないよね。
紘太郎　じゃあ、おっきい順番にしよっか。
他の男子　うん。
・男子たち、後ろを向いてズボンをおろす振りをする。
紘太郎　一番！
優　二番！
佑樹　三番！
・悟が登場。
悟　あれ、僕の寝る場所は？
優　四番目はそっち。
悟　うん。
由季　あれ？悟君、何持ってるの？
悟　ぬいぐるみ。
麻美　何でそんなもの持ってるの？
悟　何でみんな持ってないの？
愛　ぬいぐるみは、三歳までしか持ってきちゃいけないんだよ。
悟　そうなの？　でも、これがないと眠れないんだ。
佑樹　そんなにその熊ちゃんが好きなんだ。
悟　うん、さくらちゃんって言うんだよ。
裕香　ママとさくらちゃんとどっちが好き？
悟　ママ。

由季　ママは持ってこなかったの？
悟　リュックに入らなかったんの。
他全員　ふーん。
・上手から先生が登場。
先生　あれ、悟君、かわいい熊ちゃんだね。
悟　うん、僕のさくらちゃん。
先生　僕のは、エイドリアンって言うんだよ。
佑樹　先生も持ってるの？
先生　これがないと眠れなくてね。
紘太郎　それがないとどうなるの？
先生　うなされて怖い夢を見るんだ。
麻美　怖い夢ってどんな夢？
先生　エイドリアンが追いかけてくるんだ。
園児全員　こわーい！
先生　みんな、ちゃんとおふとんひけたかな？
園児全員　はーい！
先生　みんな今日は何が楽しかった？
優　夕ご飯のカレー！
佑樹　花火！
愛　悟君のゲロ！
悟　もう一回吐いてあげようか？
先生　カレーのあとのゲロは強烈だからやめようね。
悟　うん。
先生　明日は何をするか知ってますか？
佑樹　虫取り！
麻美　山登り！
愛　歯磨き！
先生　歯磨きはちゃんとしましょうね。
愛　はーい。
先生　明日はみんなで川遊びをします。
由季　私水着忘れちゃった。
麻美　私、パンツ三枚持ってきたから貸してあげる。
由季　でも男の子の前では恥ずかしいし・・・。
愛　私は、ちゃんと水着持ってきたよ。
先生　大丈夫、ひざから下しか入りませんから。

愛　ちっ。
優　先生、ザリガニとれる？
先生　うーん、どうかな。
悟　（立ち上がって）日本ザリガニは、清流でしか取れないんだよ。
紘太郎　鮎とか獲れる？
先生　獲れるといいね。
佑樹　鮭は？
先生　鮭？
裕香　鯨もいるといいね。
先生　いるといいね。
由季　男は？
先生　釣れるといいね。
由季　よーし、いっぱい釣るぞー。　あっ、流れ星！
全員　どこどこ？
裕香　見えなかったよ。
麻美　あれっ、あそこあそこ！
先生　みんなお願いできましたか？
麻美　え？
先生　お星様に三回お願いすると、願い事がかなうんだよ。
由季　何で？
先生　昔からそう言われてるんです。
愛　じゃあ、みんなでお願いしよう。
全員　うん。
麻美　あっ、来た！
・全員それぞれ願い事を言うが、先生は他のみんながやめても延々と言っている。
悟　先生、もう終わってるよ。
先生　あ、そう。お願い事は三回言えましたか？
佑樹　短くて言えなかった。
裕香　私も。
紘太郎　すぐ消えちゃうんだもん。
先生　どんなお願い事したの？
紘太郎　お金持ちになって、おいしい物たくさん食べて、おもちゃもたくさん買ってもらって長生きする事。

先生　それは欲張りだよ。
愛　先生だって言い切れなかったじゃない。
先生　大人には色々あるんだよ。
愛　私なんか、一個だけしかお願いしなかったのに。
優　何？
愛　明日雨が降りますように。
裕香　何で？
愛　だって雨が降ったら川の水がいっぱいになって、みんな私の水着姿が見られるでしょ？
男子園児全員　やった！
先生　（楽器を鳴らして）そうなったら中止です。
裕香　何で？
先生　水が増えると危険だからです。
愛　つまんないの。
麻美　みんなお願いする事が多いから、間に合わないのよ。
悟　そうだよね、要点はまとめた方がいいよ。
紘太郎　そうか、四つは無理か。
優　二つなら間に合うかな。
佑樹　例えば？
優　ウルトラマンを、三分じゃ短いから、五分にして欲しいのと、あとウルトラマンに会いたい。
麻美　長すぎるわね。
優　五分に会いたい！
悟　意味わからん。
先生　やっぱり一つがいいよね。
由季　一つかなえられれば十分じゃない。
愛　あんたはいいわよね。
由季　何で？
麻美　あっ、流れ星！
由季　男、男、男。
愛　短くていいわねー。
由季　うん、男命。
麻美　先生はお嫁さんだよね。
先生　まっ、それもあるかな。
愛　だったらさ、一番望みが薄い先生のためにみんなでお

優　祈りしよう。
愛　お嫁さんってか。
由季　そう。
愛　お嫁さん、お嫁さん、お嫁さん？
麻美　そう。
悟　九人いれば何とかなるね。
裕香　下手な鉄砲数打ちゃ当たる、か。
佑樹　先生が幸せになってくれれば、私達も幸せ。
紘太郎　先生、僕達頑張るからね。
先生　ずっと僕達一緒だよ。
園児全員　（泣きながら）僕はみんなの先生になって本当によかった。みんな、頼んだよ。
麻美　うん。
悟　・全員箱馬に座り、空を眺めている。
愛　綺麗な星空だね。
先生　なんだか吸い込まれそう。
愛　先生のお嫁さんになる人も、この星を見てるのかな。
先生　どの星かな。
・照明F．O．　再び照明がつくと、先生は寝てしまっている。
愛　私、先生のお嫁さんになる。
紘太郎　えっ、何で？
愛　だって、ちっとも流れ星来ないじゃない。
裕香　でも、なんで愛ちゃんが？
佑樹　愛ちゃん、先生のこと好きなの？
愛　努力する。
悟　犠牲的精神ってこと？
愛　だって、先生かわいそうじゃない。
麻美　そうよね、流れ星にお祈りしたって、きっと駄目だと思うから。
優　流れ星出て来なかったのは、駄目だと思ったからじゃないの？
麻美　流れ星もなかなか考えてるわね。
愛　きっと、先生と結婚してくれるお嫁さんなんて、誰もいないと思うわ。
紘太郎　でも、先生が愛ちゃんを選んでくれるとは限らないよ。
愛　私のどこに文句があるの？
紘太郎　ないです。
由季　じゃあ、私が先生のお嫁さんになってあげる。
裕香　直樹君はどうするの？
由季　あんなデブはもう忘れたの。
麻美　先生だってデブじゃない。
由季　このデブは許す。
佑樹　由季ちゃんの理想は、よくわからないよ。
由季　愛とはいつも迷うものよ。
愛　（由季の箱馬に足を乗せて）私がなるの！
由季　いいえ、私！
麻美　とにかく、誰かが先生の面倒見なくちゃね。
愛　年をとったら、おしめを換えなきゃいけないのよ、我慢できる？
由季　じゃあ、もう少し考えてみる。
優　先生、浮気するかもしれないよ。
裕香　ホストクラブに入りたいって言ってた位だからね。
麻美　元々が浮気性なのよ。
愛　私の魅力をバカにしないで。
悟　じゃあ結婚式はいつやるの？
愛　帰りのバスで。
佑樹　お父さんやお母さんはどうするの？
愛　いざとなったら駆け落ちよ。
優　（立ち上がって）愛ちゃん、先生と結婚するのやめてよ。
愛　何で？
優　君は将来、僕のお嫁さんとして地球を守らなくちゃいけないんだよ。
愛　それって、愛の告白ってこと？
優　君のハートにウルトラビーム！
麻美　これは宇宙的三角関係ね。
先生　うーん。
・園児達全員、一斉に先生のほうを見る。

先生　（寝言で）みんないい子だなぁ。
紘太郎　ねぇ、先生は結婚よりも、僕達にいい子になって欲しいんじゃないかな。
由季　寝言にまで言ってる位だもんね。
麻美　愛ちゃん諦めな。
愛　うん、お嫁さんよりいい子が欲しいのか。
佑樹　でも、僕達いい子だよね。
悟　先生は、理想のいい子を求めてるんじゃないのかな。
裕香　理想のいい子って？
優　もっといい子だよ。
裕香　どんなの？
麻美　もっともっといい子だよ。
由季　じゃあ私、もっともっといい子になる。
紘太郎　よくわかんないよ。
愛　私、愛を捨てて、もっともっといい子になる。
麻美　みんなもっともっともっといい子にならなきゃ駄目よ。
紘太郎　ますますわかんない。
麻美　・悟、くまを持って先生のそばに行く。
悟　悟君どうしたの？
優　僕、今日先生と一緒に寝る。（寝転がる）
佑樹　俺も。（上に寝転がる）
麻美　僕も。（上に寝転がる）
裕香　じゃあ私も。（上に寝転がる）
由季　私も。（上に寝転がる）
紘太郎　私も。（上に寝転がる）
愛　どうする？
紘太郎　愛とは重いものよ。
愛　うん。（上に寝転がる）
先生　先生、いい子になるからね。（上に寝転がる）
先生　（うなされて）…来ないで…エイドリアーン！

・暗転

第十二場

雄貴　・雄貴と敬大が、台に乗って下手から出てくる。
敬大　君が僕をいじめていた訳が、やっとわかったよ。
雄貴　最初は、悔しくてやっていただけだったんだけどね。
敬大　僕達二人、由季ちゃんに捨てられたもんな。
雄貴　あの時は、君が憎く思えた。
敬大　だから僕にいたずらしたんだろ？
雄貴　でも、それは最初のうちだけさ。
敬大　途中から感じ始めていた。
雄貴　僕って口ベタなんだ。
敬大　それもなんとなくわかっていた。
雄貴　由季ちゃんに捨てられてから、君を意識し始めたんだ。
敬大　僕も、いつの間にかいじめられる事に快感を覚えていた。
雄貴　ごめんね。
敬大　謝る事ないよ。
雄貴　寒くない？
敬大　ううん、ちっとも。
雄貴　こっちへお寄りよ。
敬大　何か照れるな。
雄貴　誰も見てない。
　・敬大、雄貴との間を少し詰める。　雄貴、敬大との間を少し詰める。　そのまま二人、手を握る。
敬大　あ、流れ星！
雄貴　流れ星も照れているのかな。
　・二人、じっと見詰め合う。
敬大　敬大。
雄貴　雄貴。
　・二人は、頭をくっつけて空を見上げる。
　・二人の乗った台が上手から去り、暗転。

第十三場

先生　・園児全員が、姿勢正しく座っている。
愛　みんなどうしたんですか？
先生　亀岡先生、私たちいい子になる事に決めたんです。
紘太郎　いい子？
　僕達考えたんです。みんなで先生が願っているいい子になろうって。
由季　何か私達、座り方変ですか？
先生　いいや、きちんと足をそろえて行儀はいいですけど。
裕香　行儀悪い事はやめたんです。
先生　しゃべり方まで、本当にみんなどうしたの？
優　心を入れ替えたんです。
麻美　私達いい子になったんです。
悟　先生、出席をとってください。
先生　はい。
佑樹　みんな大きな声で返事をするんだよ。
園児全員　うん。
先生　麻美ちゃん。
麻美　（手を挙げて）はい。欠席者はいません。
園児全員　（手を挙げて）はい。
先生　本当におかしいよ、みんな。
　・園児全員手を降ろす。
愛　先生、私達悪い子なんですか？
先生　いいえ、そうじゃないんだけど、何か変。
愛　じゃあ、変な子なんですか？
先生　いや、そうじゃなくて。
悟　先生、突然だから戸惑っているだけなんですよね。
先生　そう。
麻美　きっとみんなの笑顔が足りないからだよ。
愛　みんな笑って。
園児全員　にっ。（笑う）
先生　あー、とてもいい笑顔ですね。
愛　やめ。
　・園児全員、笑うのをやめる。
先生　じゃ、始めましょう。
園児全員　はい。
先生　海の中の生き物なーんだ？
紘太郎　はい。
先生　はい、紘太郎君。
紘太郎　魚です。
愛　紘太郎君、それは先生に失礼よ。
紘太郎　何で？
愛　それじゃあまりにも漠然としすぎているでしょう。
紘太郎　ごめんなさい、先生。私が悪うございました。
先生　いや、それでもいいんだけど。
悟　紘太郎君、答えは絞った方がいいよ。
先生　どんな風に？
悟　海の中の生き物、クロマグロ。
先生　クロマグロ？
悟　幼魚の時はヨコワと呼び、体長約三メートル、三百キログラム程度まで成長する魚。大西洋の北半球の温帯域に分布しています。
先生　わかりました、海の生き物やめ。じゃ、空を飛ぶものなーんだ？
佑樹　それは生命体ですか、それとも物体ですか？
優　未確認飛行物体のＵＦＯと言うものもありますが。
由季　想い。
先生　は？
由季　熱い心の想い。
麻美　由季ちゃん、茶化すのはやめようよ。
由季　ごめんなさい、未熟でした。
先生　何で？いいじゃない。熱い想いが空を飛ぶ、子供らしくていいじゃない。
悟　答えのはっきりしていない質問は、愚問です。
先生　すいません。
紘太郎　みんな、先生のご機嫌を損ねるような事は、やめようよ。
愛　みんな笑って。
園児全員　にっ。（笑う）

先生　はい。
愛　やめ。
先生　・園児全員笑うのをやめる。先生の質問の仕方がまずかったかな。それじゃあ、陸に住んでいる動物で、四本足。
麻美　それから？
先生　水にも泳げて。
優　それから？
先生　ほ乳類で。
佑樹　それから？
先生　卵を産む。
園児全員　カモノハシ。
先生　正解です。
裕香　（立ち上がって）更に詳しく説明すると、カモノハシはカモノハシ目単孔類のほ乳類で、頭胴長約四十センチメートル、尾長約十二センチメートル、カモに似たくちばしを持つことからこの名前がつけられました。
悟　（立ち上がって）補足しますと、趾には蹼があり水中の小動物をえさとしています。オーストラリアとタスマニ……。
先生　あー、もういいもういい！
先生　・二人とも座る。何だよ。やっぱりみんな今日なんか変だよ。
紘太郎　お気に召しませんか？
先生　そうじゃないけど、みんな子供らしくない。
麻美　でもみんないい子です。
愛　いい子は子供らしくないんですか？
先生　いや、そうじゃなくて。
由季　どんなのが子供らしいんですか？
先生　そうだね、やっぱり明るくて。
園児全員　にっ。（笑う）
先生　元気で。
園児全員　（ガッツポーズを決めて）元気！
先生　いやそうじゃなくて、ありさんを見て喜んだり。
園児全員　（一列になり、指でアリを拾うように体をくねらせながら）あー、ありさんだー！
先生　なのに、そのありさんを潰して殺してみたり。
園児全員　（指を振ってアリを落とし、踏みつけて）ふんっ、死ね。
先生　それを後悔して泣いたり。
園児全員　（しゃがんで泣きながら）ありさん、ごめんなさい。
先生　別に僕は、みんなが不良だって構わないんだよ。
園児全員　（ヤンキー座りをし、タバコを吸う真似をして）スッパー、オラァ。
先生　それじゃ、情緒不安定すぎるでしょ。
紘太郎　でも、先生の言った通りにしましたよ。
愛　すごみが足りなかったんだね。
先生　・愛以外は戻る。
愛　でも先生、私達いい子でしょ？
先生　・愛も戻る。
先生　僕は今までの君達がいいんだよ。今まで通り、君たちらしくしてくれればいいんだよ。
裕香　私達らしく？
佑樹　僕達らしく？
先生　そう。
先生　自分達らしくすれば、いい子ってことですか？
愛　そう。
先生　（頭を抱えて）わかんない。
麻美　わかんない。
園児全員　子供は、子供らしくしてればいいんだよ。
先生　子供は子供らしく？
麻美　幼稚園児は幼稚園児らしく？
優　そう。
先生　小学生になったら小学生らしく？
裕香　んぇ？
先生　中学生は中学生らしく？
由季　高校生は高校生らしくってこと？
先生　まあ、そういうことかな。
愛　じゃあ、先生は先生らしいの？
先生　いや、それは……。

麻美　先生は大人らしいってこと？
先生　その、なんていうか……。
愛　じゃあ、私たちは大きくなる度にそれらしくならなきゃいけないわけ？
先生　そういう事だと思うんだけど。
愛　じゃあ、自分らしさはどこにいっちゃったの？
先生　どこにいっちゃったんだろうね。
園児全員　先生！（立ち上がり、先生のほうへ）
先生　わかんない。（足をバタバタさせ、頭を抱える）
全員　わかんないよう。（足をバタバタさせ、頭を抱えながら散る）

・軽快な曲が流れる中、明転。

第十四場

愛　・先生、ハリセンで優を叩く。
先生　先生どうしちゃったの？
裕香　先生は、生まれ変わる事に決めたんです。
佑樹　でも叩くなんて…。
優　先生らしくない。
先生　これは暴力だ。
優　（ハリセンで優を叩き）愛のムチです。
優　でも…。
・先生、ハリセンで優を叩く。
優　しかし…。
・先生、ハリセンで五回横殴りに優を叩く。
先生　まだなにか？
優　ありがとうございました。（箱馬に戻る）
麻美　なんかおかしい。
先生　おかしくない。
由季　何でハリセン持ってるの？
先生　これは感情表現です。
紘太郎　それをもってないと、感情表現できないの？
先生　（紘太郎を叩く）これを持っていたほうが感情豊かになるんです。
紘太郎　豊か過ぎます。
愛　ハリセンを持っていることが、先生らしいの？
先生　先生は今、生まれ変わろうとしています。
悟　ハリセンで？
先生　そう、昨日までの先生とは違います。昨日までの僕は捨てる事にしたんです。目覚めたんです。だから、エイドリアンとも、さよならしたんです。
佑樹　夢の中で、エイドリアンは追いかけてこないの？
先生　ハリセンで叩き潰しました。
由季　ずっとそのハリセンを持ってやるの？
先生　わかりません。僕が変わるきっかけになればいいと思って。
佑樹　ああ、よかった。
先生　（佑樹を叩き）次はムチかも知れません。
佑樹　え？
愛・麻美　（真ん中の前に来て、向かい合い）でも女の子には暴力ないんだよねー。
先生　（愛、麻美を叩く）愚か者。女だからといって甘やかされると思うな。
愛・麻美　痛ってー！（客席を振り返り）このデブ。
先生　（愛、麻美を叩く）ポッチャリ系だ、座れ。よーし、今日も元気に始めるぞー。（紘太郎を叩く）返事！
園児全員　はい。
先生　裕香、好きな乗り物は何だ。
裕香　えっと……。
先生　（裕香を叩く）遅い。次、悟。
悟　ハイブリッドエンジンを搭載した……。
先生　（悟を叩く）理屈を言うな。優！
優　はい。
先生　（優を叩く）呼んだだけだ。佑樹。
佑樹　はい。空飛ぶじゅうたんです。
先生　（佑樹を叩く）乗った事あんのかー！由季。
由季　はい。（前に出る）
先生　好きなタイプは？

由季　ポッチャリ系です。
先生　嘘つけー！（由季を叩く）
麻美　（前に来て）先生、それが本当に先生らしいの？
先生　わかるかー！（麻美を叩く）
愛　わかんないのにやってんの？
先生　やってんだー！（愛を叩く）　全員集合。
先生　・園児全員、前に横一列で並ぶ。
先生　（園児たちに背中を向けて）先生に文句のある奴は手を挙げろ！
先生　・園児全員、手を挙げる。
先生　降ろせ！
先生　・園児全員、手を降ろす。
園児全員　（振り返って）よし、誰もいないな。
先生　えっ。
先生　右向け右！
先生　・園児全員、右を向く。
先生　左向け左！
先生　・園児全員、左を向く。
紘太郎　（紘太郎を叩く）人の言いなりになるな。
先生　でも……。
先生　（紘太郎を叩く）言い訳するな。全体前ー進みたいと思うか？
悟　どっちなんですか？
先生　自分の意志はないのか。
愛　だって、これは号令でしょ？
先生　誰が号令だと言った？
麻美　先生、私達どうすればいいんですか？
先生　自分で考えろ。
愛　はい、じゃあ私進みます。
先生　（紘太郎を叩く）勝手な行動をとるな。
紘太郎　先生、僕何もしてません。
先生　俺の近くにいるのが悪いんだ。
先生　・紘太郎以外の園児、並んだまま六歩先生から離れる。
先生　戻れ！
先生　・紘太郎以外の園児、一歩で飛んで戻る。
紘太郎　（紘太郎をポンポン叩きながら）いいか、人の言う事を聞くか聞かないかは、己自身が決める事だ。自分が納得していないのに、人に振り回されるような人間になるな。
先生　先生、まだよくわかりません。
園児全員　（紘太郎を叩く）そういうときは笑ってごまかせ。
先生　にっ。（笑う）
紘太郎　（紘太郎を叩く）ヘラヘラするな。ところで突然だが、今日はいい知らせがある。
先生　えっ。
園児全員　今日、美保子先生から手紙が届いた。
先生　えっ。
園児全員　なんとラブレターだ。
先生　嘘ー！
園児全員　嘘だ。（歩きながら手紙を読む）みんな元気ですか。
先生　はい、元気です。
園児全員　それはよかった。先生の赤ちゃんは昨日、コウノトリさんが運んできてくれました。
先生　キャベツじゃないの？
愛　キャベツを背中にしょったコウノトリさんが来たんです。
先生　ふーん。
園児全員　丸々太った亀のような男の子でした。
先生　亀？
園児全員　きっと二枚目になることだと思います。みんなは新しい先生と楽しくやっていますか？
先生　・園児全員沈黙する。
先生　（声を高めて）みんなは新しい先生と楽しくやっていますか？
園児全員　にっ。（笑う）
先生　みんなの笑顔が目に浮かびます。みんなが大きくなった姿を早く見たいです。新しい先生の言うことをよく聞いて、いい子にしていてくださいね。美保子先生より。

麻美　終わり？
先生　終わり。
麻美　手紙書こっかー。
裕香　それいいね。
紘太郎　でも、僕字下手だよ。
愛　私、漢字検定一級。
先生　本当？
愛　嘘。
由季　私、字書くの嫌だ。
優　何で？
由季　「好き」っていう字しか知らないから。
先生　じゃあビデオ撮ろっか。
悟　ビデオ？
先生　そう、ビデオレター。これなら、みんなの元気な姿を美保子先生に見てもらえるじゃないか。
愛　ビデオに撮るの？
先生　そう。
愛　じゃあ私、綺麗なお洋服着てこなきゃ。
麻美　愛ちゃんずるーい！
愛　早い者勝ちよ。
麻美　じゃあ私も。
愛　身の程知らずね。
紘太郎　先生なんでもいいの？
先生　ああ、いいよ。美保子先生に長い間会っていなかったから、大きくなったみんなを見せてびっくりさせてあげましょう。
麻美　じゃあ、明日撮ろうよ。
先生　えっ。
麻美　美保子先生、返事待ってると思うし。
紘太郎　でも仕度できるの？
麻美　するの！
優　どうやって？
麻美　自分で考えなさい。
先生　そう、自分で考える。
愛　大きくなった自分を見せればいいんだよね。

先生　美保子先生、びっくりするぞ。
佑樹　ありのままでもいいんだよね。
先生　いいんだよ。
由季　今から相手探さなきゃ。
愛　何考えてんのよあんた。
由季　えへ。
優　三分以内に終わるよね。
先生　終わりません。
優　えっ。
紘太郎　先生、今日、僕早退します。
先生　えっ。
紘太郎　みんな、お先にごめん。
・紘太郎は去る。
愛　先生、私も早退します。みんな私に見とれないでね。
・愛は去る。
悟　ママに電話しなきゃ。
・悟も去る。
先生　さくらちゃんとも相談するんだよ。
由季　（先生のところにいって手を取る）キャッ。
・由季は去る。
先生　キャッってどういうこと。
・残りの園児は後ろに移動し、先生を見る。
麻美　みんな早退します！
先生　はい。
麻美　解散！
・男子は下へ、女は上へ、それぞれ去る。

十五

先生　（前に出て、ビデオカメラのボタンを押す）あ、あ、あ、あ、んっ…。美保子先生お元気ですか？先生からお預かりした子供達は、みんな元気です。最初、この組を任された時には、どうなる事かと思いました。初めて先生になる僕には、子供達一人一人がとんでも

ない生き物のように見えました。自分にしてみれば、相手をたかが子供だと思っていたのかもしれません。でもそれは大きな間違いだったと、今思い始めています。僕が勝手に子供に対しての自分のイメージを、ただ単に押し付けていたのかもしれません。今日は、みんながこの数ヶ月の間に大きく成長した姿と、今成長しつつある僕を、ビデオレターの中で先生へのお祝いのメッセージと共に、お届けしたいと思います。ではまず、僕から。美保子先生、赤ちゃんのご誕生、おめでとうございます。

・愛・麻美、上手から登場。

愛　先生元気ー？

麻美　私達元気だよー。

愛　（覗き込んで）映ってんの？

先生　映ってます。

麻美　始まってる？

先生　始まってます。

愛　先生、赤ちゃんは男の子だって？

麻美　亀を産んだんでしょ？

先生　亀のような男の子です。

麻美　亀、亀見てる？

先生　亀じゃないってば。

愛・麻美　先生、赤ちゃんおめでとうございます！

愛　（上着を一枚広げて）ジャーン！先生、おっぱいこんなに大きくなりました。

先生　どうしたの、それ。

麻美　私がもんで大きくしてあげました。

愛　Ｆカップです。赤ちゃんには刺激が強いかな。

麻美　先生、お乳が足りないときは、いつでも愛ちゃんに言ってください。

愛　いつでもお届けしまーす。

先生　お届けしまーす。

麻美　大きくなったら、私に任せてくださいね。

先生　麻美ちゃん、そのエプロンどうしたの？

麻美　私、大きくなったら幼稚園の先生になりまーす！

先生　どうして？

麻美　先生を見ていて、幼稚園の先生になろうと決めたんです。

先生　麻美ちゃん、先生嬉しい。（泣く）

麻美　反面教師です。

先生　えっ？

麻美　どうしてこんな人が先生になれたんでしょう？

先生　麻美ちゃん。

愛　おっぱいでーす。

佑樹　・佑樹が下手から登場。先の三人は下がる。

先生、赤ちゃんおめでとうございます。おかげで僕もこんなに大きくなりました。全てをさらす事ができないのは残念ですが・・・。

愛　本当に残念です。

優　・優・悟が下手から、紘太郎・裕香が上手から登場。

先生　シュワッチ！

優　またウルトラマンですか？

先生、僕は愛と地球を守るため、今度Ｍ七十八星雲に行く事になりました。今度お会いする時はもっともっと大きくなっていると思います。きっと身長は四十メートルで、体重は内緒です。愛と地球を守るため、そして先生の赤ちゃんを守るため。それまで楽しみにしていてください。

先生　フォーフォーフォーフォー！

優　出たな、バルタン星人。（先生に二、三発叩かれて）いてっ！いてっ！いてっ！（後ろに飛ぶ）

悟　先生、ご出産おめでとうございます。先生もこれで一児の母になられることですね。ウルトラマンに地球は救えません。地球を救うのは人民の人民による人民のための政治、これしかありません。そして、それは僕にしかできません。先生の赤ちゃんも僕にお任せください。明るい未来に向かってレッツチャレンジ！

先生　政治家になるの？

悟　いいえ、演歌歌手です。

先生　政治と演歌とどういう関係があるの？

紘太郎・裕香　先生！
紘太郎　先生元気？
裕香　おめでとうございます！
紘太郎　先生、赤ちゃんがもし病気になったら、きっと僕が治してあげるからね。
先生　そうか、紘太郎君は、お父さんの跡を次いでお医者さんになるんだ。
紘太郎　ううん、院長先生になるの。
先生　そっか、裕香ちゃんは？
裕香　私、玉の輿になるの。
先生　そっか、看護婦さんをやって、それから二人は結婚するんだ。（カメラに向かって）先生、紘太郎君と裕香ちゃんは、いつか結婚するそうです。
紘太郎　子供は二人。
先生　二人ね。
裕香　別れた時、一人一人分けられるから。
先生　えっ。
紘太郎　財産は半分こだもんね。
裕香　幸せになろうね。
紘太郎　任しといて！
先生　計画性のある二人でした。
・紘太郎・裕香、後ろに下がる。
先生　子供達はいろんなことを考えているようです。僕も負けてはいられません。いつか僕も結婚して、こんな子供達に囲まれるような家庭を築きたいと思います。
由季　先生おめでとー！美保子先生、私最高のお婿さんを見つけましたー！
先生　えっ。
由季　心配しないで、もうオムツは換えられるわ。
先生　章造君はどうしたの？
由季　女の過去は見ちゃ駄目よ。
先生　僕、お婿さんになるの？
由季　幸せにしてあげるからね。
愛　（後ろから出てきて）美保子先生、二人は結婚するそうです。
紘太郎　先生やったね。
先生　僕、まだ決めてません。
麻美　二人のために、すぐコウノトリさんに連絡してあげてください。
愛　十五羽は必要ですよ。
先生　そんなにいらないってば。
由季　頑張ります。
麻美　日もいい事ですし、今から結婚式を始めたいと思います。
・園児全員拍手する。
愛　（みんなで先生を引っ張って）先生ここ、先生ここ。
麻美　（前に立って）美保子先生、安心してください。今、私達、亀先生大好きです！
愛　はい、みんなお祝いの言葉を言うよー。
先生　だから、僕結婚しないってば。
愛　（ハリセンで先生を叩き）観念せいっ！　はい、カメラに向かって！美保子先生！
全員　おめでとう！
先生　結婚しませんからね！
愛　やかましい！（叩く）
・全員騒いでいる中、幕が下りる。

――幕――